巻頭特集

住宅街に佇む地元の神様に新年のご挨拶

呉服神社

阪急池田駅から高架沿いを西に向かうとすぐ、大きな鳥居が現れる。さらに歩くと、左手奥に呉服神社が見える。住宅街を通る参道を進んで神門をくぐり、空気が澄み渡る朝の境内に足を踏み入れた。機織・裁縫の技術を伝えたとされる呉服（くれはとり）をお祀りした同神社の由緒などについて改めておさらいしよう。

衣服の神様を祀る神社

呉服神社の由緒によれば、応神天皇（おうじんてんのう）の頃、阿知使主（あちのおみ）親子を中国の呉の国に遣わし、機織・裁縫の職人を求められた。長い旅の末、呉の国に辿り着き、呉王に乞うて呉服（くれはとり）と穴織（あやはとり）の姉妹を伴い渡来することとなる。姉妹はこの池田の地に住みつき、機織・裁縫の技術を伝えたとされている。その後、仁徳天皇（にんとくてんのう）の頃に呉服が亡くなられ、御身体は、「姫室（ひめむろ）」へと移された。翌年、仁徳天皇がその功績を称え、呉服神社を建てられ、呉服をお祀りすることになったといわれている。時が過ぎ、本殿には仁徳天皇が合祀され、二柱（ふたはしら）の神様を祀る神社として今にある。

境内に入ると鮮やかな朱色の拝殿が目に飛び込んできた。入ってすぐの手水舎（てみずや）で口や手を漱ぎ清める。二礼二拍手一拝で、神様にお詣りする。余談だが、鈴は、カランカランという音を耳から聞くことで体の内にある穢れを祓うためのものだそうだ。なので、鈴を鳴らすタイミングは、二礼二拍手一拝の前にするのが良い。神様にお詣りする前に、身体の内も外も清めてから、参拝することをお勧めする。

さて、この拝殿は昭和44年（1969年）に建てられたものである。拝殿の板戸の左右には、鳳凰が描かれたステンドグラスがはめ込まれており、参拝者の目を惹く。当時は、ステンドグラスを取り入れることに反対する意見も多かったそうだ。現在では、モダンで素敵な拝殿だと感じる人が多いのではないだろうか。

拝殿の奥に本殿が見える。こちらは、天正6年（1578年）、荒木村重（あらきむらしげ）の乱の際に焼亡し、慶長9年（1604年）に再興されたものである。以来、修復を繰り返し、400年以上という歴史ある建物として現存している。屋根の部分には糸巻を模した神紋がついている。お気づきの人もいるかと思うが、池田市の市章も糸巻を表している。呉服と穴織が機織・裁縫の技術を伝えたとされる伝承が、由来となっているそうだ。

さらに、奥へ進むと「姫室（ひめむろ）への道」という看板が立っている。その先には、「姫室」と刻まれた石碑がある。呉服の御身体を納めた室（むろ）であるといわれている。他にも呉服・穴織の伝承にまつわる場所が池田にはたくさんあるそうだ。

『呉服（くれはとり）』をお祀りしている神社ならばなぜ、『呉服（くれはとり）神社』ではないのかという疑問を持たれた人も多いだろう。正しくは『呉服（くれはとり）』で、『呉（くれ）』と『機織り（はたおり）』の略である『はとり』それに由来する『服部（はとり）』が縮まって『呉服（くれは）』となったといわれている。これは池田だけの読み方だそうだ。

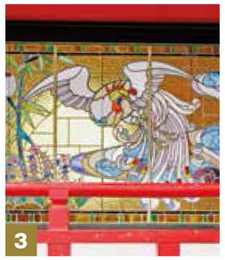
「神社のことをもっと知ることで、みんなの神様なのだと思ってもらえたら。分からないことがあれば気軽に聞きに来て下さい」と話してくれた禰宜の牧野紀男さん

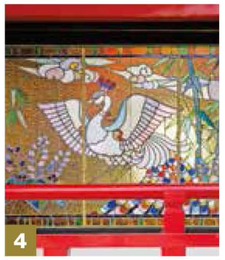
感謝する心をもって初詣

新年は地元の人々で賑わう呉服神社。どのようなお詣りの仕方が良いのか、禰宜の牧野紀男さんにお伺いした。「ここの主祭神は呉服さんなので、最初に、呉服さんにお詣りして、御挨拶をしにいきましょう。そして、『昨年一年ありがとうございました』とお礼から入りましょう」。つい忘れてしまいがちな感謝の気持ちを伝えること。人と人との間でも大切なことであるなと、身が引き締まる思いがした。「池田市は純粋に自然に恵まれた土地だと思います。自然災害もほとんどない。台風の被害もあまりない。この恵まれた池田という土地に感謝して大事にしていきたい。今の環境が当たり前だとは思わずに、自然の恵みや身の回りのあらゆることに感謝して生きるほうが、ポジティブで得だと思います」。この土地に対する熱い気持ちが伝わってきた。

熱心な参拝者は毎日、台風の日でも、お詣りに来るそうだ。朝の4時から参拝する人もいるという。神社の横には幼稚園があって、送り迎えの際に親子で神社に立ち寄る姿も見られた。「住む人、参拝する人、関わる人、みんなの神様だということ。そして、神様を大事に思う気持ちが神社を支えています。私たちの役目は、それにどこまで応えられるのかだと思っています」。昔から地元を守ってこられた神様がここにはいらっしゃるのだと感じた。

機織技術伝承の地とされているこの池田で、遥か昔、異国から渡来して機織・裁縫を伝えた呉服という女性に思いを馳せながら、感謝の気持ちを忘れず、新年の初詣へと出かけてみてはいかがだろうか。





1 住宅街の中にある神社へ続く参道。横にある幼稚園から子供たちの賑やかな声が響く
2 境内に入ってすぐの「手水舎」。まずは、ここで口と手を清めよう　3・4 拝殿にはめ込まれたステンドグラス。左右には鳳凰が描かれている　5 呉服神社の神紋は糸巻を表している　6 呉服の御身体が納められたとされる「姫室（ひめむろ）」　7 呉服神社の絵馬は糸巻のデザイン　8 それぞれ柄の違う布で作られたかわいいお守り

呉服神社の境内におられる神様たち

恵美寿社

福の神として崇敬される「えびす様」をお祀りした末社恵美寿社は、明治33年（1900年）に栄本町から引っ越してこられ鎮座された。呉服神社の「恵美寿祭」はこの時が起源となる。「阪急沿線 西国七福神朱印巡り」の恵美寿神をお祀りする神社としても有名である。

毎年1月9日から3日間おこなわれる「恵美寿祭」は、商売繁盛や開運・招福を祈願する大阪・北摂地域の新年行事。当日の境内は、福娘から手渡され「福笹」などの縁起物を手にする参拝客らで賑わいをみせる。

◀拝殿に向かって右側に位置する「末社恵美寿社」

◀毎年1月9日～11日迄おこなわれる「恵美寿祭」は大勢の人で賑わう

天満宮

◀拝殿に向かって左側に位置する「末社天満宮」

▼「なで牛」

学問の神として有名な菅原道真公（すがわらのみちざねこう）をお祀りした末社天満宮は、明治42年（1909年）に「天神の森（菅原町）」から引っ越して来られ鎮座された。受験・試験合格の祈願をする人が訪れる。余談だが、池田駅周辺にある菅原町という町名は、以前、菅原道真公をお祀りする「天神の森」があったことから呼ばれるようになったといわれている。

呉服神社

住所　大阪府池田市室町7-4
電話　072-753-2243
境内　参拝自由（社務所は9～17時）

文／小浦 沙耶歌　デザイン／松本 恵弥　写真／Kazuhiko Hirohata　写真協力／呉服神社